

事業所における自己評価総括表

○事業所名	江戸川区小岩育成室			
○保護者等 評価実施期間	令和 6 年11月 5 日 ～ 令和 6 年11月29日			
○保護者等 評価有効回答数	【対象者数】	32名	【回答者数】	32名
○職員 評価実施期間	令和 6 年11月 5 日 ～ 令和 6 年11月29日			
○職員 評価有効回答数	【対象者数】	11名	【回答者数】	11名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月14日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや組織的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	アットホームな雰囲気大切に、保護者や子どもが居心地の良い安心できる環境を作り、様々な経験を親子で積み重ねてもらっている。	職員間のコミュニケーションを円滑にするため、ケース会議、リーダー会議、セラピスト会議など、お互いの意見を聴き伝え合う場を定期的を作り、共通理解を図っている。	会計年度任用職員も会議に参加しながら共に運営をしている。様々な立場からの意見を反映させながらより良い環境づくりをしていく。
2	セラピスト（作業療法士・言語聴覚士・理学療法士・公認心理士）が保育士と共にチームに加わり、クラス運営を行っている。	セラピストも療育プログラムのリーダーをとり、集団療育の支援計画の立案にも参画し、専門性のステップアップを図りながらクラス運営をしている。	各職種の専門性を活かして連携を強化し、支援の向上につなげていく。
3	近隣保育園との交流を40年以上継続している。育成室に通う子どもが地域の中で共に育つ環境を築いており、地域との関係作りにつながっている。	近隣の公立・私立保育園と、年に5～6回交流し、一緒に遊ぶことを楽しめる場となっている。他育成室との交流も昨年より実施している。	子どもや保護者が保育施設を身近に感じ、就園への移行支援につながっている。継続しながら、経験を積み重ねられるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	きょうだい支援	きょうだい支援について、育成室としてどのような内容の支援が提供できるかが課題となっている。	利用者のニーズを把握して内容等を検討し、計画及び実施していく。
2	小学校との連携	子どもが就学に向けてイメージを持てるような活動を具体的に計画し、実施していくことが課題となっている。	小学校見学など、小学校との交流について早めに学校側と協議し、年間の立案に組み入れていく。
3	保護者向けの講座や講演会のニーズに合った開催	講座後に保護者の方より感想をいただき、テーマの内容を検討して次年度に活かしているが、通年同じ内容のテーマが多くなっている。	講座や講演会で聞きたいことや学びたいことのご意見を集め、ニーズに沿ったテーマや、多くの方が参加しやすい時間の設定等を検討していく。